

少しずつ日脚が伸びてくる頃となりました。今月号も最新トピックスをお届けします。

国内動向 ▶▶▶▶▶

① デクロランプラスの取扱いに関する技術上の基準（案）等を公表（厚生労働省・経済産業省・環境省）

厚生労働省・経済産業省・環境省は、化審法における第一種特定化学物質に指定されたデクロランプラスについて、2024 年 12 月 27 日に「デクロランプラスの取扱いに関する技術上の基準（許可製造業者に係るものを除く。）を定める省令案」及び「デクロランプラスの容器、包装又は送り状にデクロランプラスによる環境の汚染を防止するための措置等に関し表示すべき事項案」を公表した（意見募集期間は終了）。同省令及び告示は、令和 7 年 2 月 18 日に施行/適用予定である。

[もっと詳しく▶](#)

[e-Gov（「デクロランプラスの取扱いに関する技術上の基準（許可製造業者に係るものを除く。）を定める省令（案）等」に対する意見募集（パブリックコメント）について）](#)

② 化学物質審議に係る 3 省合同会合を開催（厚生労働省・経済産業省・環境省）

1 月 14 日、「令和 6 年度第 9 回薬事審議会化学物質安全対策部会化学物質調査会」、「令和 6 年度化学物質審議会第 4 回安全対策部会・第 244 回審査部会」及び「第 251 回中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会」の合同会合が開催された。化審法リスク評価における Weight of Evidence を用いた分解性の評価等について審議が行われた。

[もっと詳しく▶](#)

[経済産業省（令和 6 年度化学物質審議会第 4 回安全対策部会）](#)

[環境省（令和 6 年度第 9 回薬事審議会化学物質安全対策部会化学物質調査会、化学物質審議会第 4 回安全対策部会・化学物質審議会第 244 回審査部会、第 251 回中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会会合【議事要旨】）](#)

③ CREATE-SIMPLE を更新（厚生労働省）

厚生労働省が公開している化学物質のリスクアセスメントツール「CREATE-SIMPLE」が更新され、ver.3.0.4 となった。最新版では、政府GHS分類結果（令和5年度分）や国が定める濃度基準値（令和 7 年 10 月 1 日適用物質分）のデータが追加されており、混合物のリスク判定では、皮膚等障害化学物質の裾切値を考慮した判定となるように更新された。その他、不具合への対応や画面誤記の修正等も反映されている。

[もっと詳しく▶](#)

[厚生労働省（CREATE-SIMPLE）](#)

海外動向 ▶▶▶▶▶

① 第 47 回国連 GHS 専門家小委員会の報告書を公開（UNECE）

2024 年 12 月 4 日～6 日にジュネーブで開催された国連 GHS 専門家小委員会の第 47 回会合に関する報告書が公開された。2025-2026 年の作業計画には、健康有害性、環境有害性の分類のための動物を用いない方法の使用、生殖細胞変異原性の分類、内分泌かく乱物質に関する検討の継続等が含まれる。

[もっと詳しく▶](#)

[UNECE（Report of the Sub-Committee of Experts on the Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals on its forty-seventh session）（PDF）](#)

② REACH 認可対象物質の候補リストに 5 物質を追加し、1 物質の項目を更新（ECHA）

1 月 21 日、高懸念物質（SVHC）として新たにオクタメチルトリシロキサン等の 5 物質群が REACH の認可対象物質候補リスト（Candidate list）に追加された。また、トリス（4-ノニルフェニル、分岐鎖及び直鎖）ホスファイトの収載理由に、環境に対する内分泌かく乱作用が追加された。今回の追加で SVHC は合計 247 物質群となった。

[もっと詳しく▶](#)

[ECHA（ECHA adds five hazardous chemicals to the Candidate List and updates one entry）](#)

③ CoRAP で 2025～2027 年に評価する物質を公表（ECHA）

欧州化学品庁（ECHA）は、欧州共同体ローリング・アクション・プラン（CoRAP）を更新し、2025 年から 2027 年に評価予定の 28 物質を公表した。このうち 8 物質が 2025 年の評価対象となっている。

[もっと詳しく▶](#)

[ECHA（Draft Community Rolling Action Plan \(CoRAP\) update for years 2025-2027）（PDF）](#)

国内の動向：化学物質による労働災害の発生状況について

2024年11月、厚生労働省が「化学物質の性状に関連の強い労働災害（事故の型が有害物等との接触、爆発及び火災によるもの）」の分析結果を公表しました。その概要について紹介します。

【過去10年間の発生状況】

2014年から2023年までの10年間における有害物等との接触、爆発及び火災による労働災害の発生件数は、年間500件前後発生し、減少傾向はみられません。中でも「有害物等との接触」による労働災害は年間400件前後で、いずれの年においても最も高い割合を占めています（右図）。

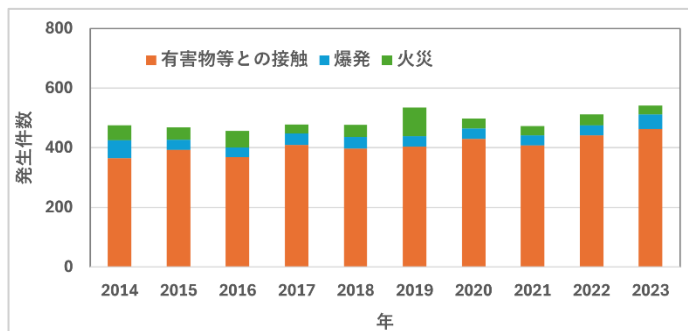


図 化学物質による労働災害の発生件数（厚生労働省、2024）

以下、「有害物等との接触」による労働災害の2019年から2021年までの3年間分（1,229件）の詳細な分析結果の概要を示します。

【業種別の発生状況】

化学工業、金属製品製造業よりも、食料品製造業、小売業・飲食店で多く発生しています。また、第三次産業や建設業など幅広い業種で発生しています。

【製品別の発生状況】

様々な業種で使用されている洗剤・洗浄剤による労働災害が全体の約3割と圧倒的に多くなっています。また、消毒・除菌・漂白などの作業に関連する製品でも多く発生しています。



【作業別の発生状況】

製造作業中が1割程度であるのに対し、清掃・洗浄作業中が約3割、移し替え・補充等の作業中や、点検やメンテナンス等の作業中が1割程度と、非定常作業における労働災害が多く発生しています。

詳細は、厚生労働省のホームページ*をご確認ください。

*厚生労働省（2024） <https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/001339306.pdf>

CERIでは、改正安衛法に対応するリスクアセスメント支援を承っています。
お気軽にお問い合わせください。

お知らせ

○国際医薬品開発展（CPHI Japan 2025）に出展します！ <https://www.cphijapan.com/>

【日時】2025年4月9日（水）、10日（木）、11日（金）10:00～17:00

【場所】東京ビッグサイト 東5ホール【ブース小間番号】：5M-22

★☆出展社プレゼンテーション★☆ 4月10日（木）11:30～12:00 6C-08

「交叉汚染防止やE&L評価のための医薬品不純物のPDE設定 ～毒性データがない場合、PDE値はどう決める？～」

詳細については次号特集記事でご案内します！



一般財団法人 化学物質評価研究機構
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

安全性評価技術研究所 評価事業部

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル 7F

Tel: 03-5804-6136（担当：福島、多田）

URL: <https://www.cerij.or.jp> E-mail: cac-reach@cerij.jp